

THE VINTAGE SCORE

VOL.6

VIDEO KILLED THE RADIO-STAR

ラジオ・スターの悲劇

THE BUGGLES

Words and Music by Bruce Woolly, T. Horn & G. Downes

トレバー・ホーン、ジェフリー・ダウンスといえば
現在のミュージック・シーンを代表するミュージシャン、
そんな彼らが結成していたザ・バグلزの名曲
「ラジオ・スターの悲劇」をお届けします。

ポップ・センスと
テクノロジーを結合させた
ザ・バグلزの名盤！
魅人(ひてひと)

プラスチックの中の未来



ポリスター 20S-75
THE BUGGLES: Trevor Horn
Geoff Downes

ザ・バグلزは'79年、今から8年前にトレバー・ホーン(b)とジェフリー・ダウンス(k)の2人によって結成された。そう、J・アンダーソンとR・ウェイクマンの抜けたイエスに参加し、『ドラマ』を作った後に解散してしまった彼らだ。その後彼らは別々に活動するが、トレバーはABC、スパンダー・バレー、再結成したイエスなどのアルバムをプロデュースし、ZTTレーベルを主催してアート・オブ・ノイズ、フランキー・ゴーズ・トゥ・ハリウッド等を世に送り出した人物として、またジェフはエイジアで『詠時感』、『アルファ』、『アストラ』を制作し、その後GTRのプロデューサーをこなす人物としての方が今となっては有名かもしれない。

以前トレバーがフリーのプロデューサー、ジェフがセッション・キーボーディストをしていた頃、コンビの評判が良かったので自分達のレコードを、ということになってできたのが、この『プラスチックの中の未来』だ。テクノ・ポップなるジャンルが形成されつつある時期だったのでその1つと考えられがちだが、いわゆるビコビコ・シーケンスはなく、テクノロジーと1歩も2歩も進んだポップ・センスの両面を備えたザ・バグلزは、どち

らかといえは現在とてもポピュラーになっているエレクトロ・ポップの原形である。日本未発売のセカンド・アルバム『Adventure in Modern Recording』はさらにその色が濃い。

ザ・バグلزの音は、当時我々が耳にしていた音に比べてかなり新鮮で、ハイセンスなメロディがすっきりとまとまっていながら1つ1つの音は奥が深かった。彼らはすべてのボイスを分離して、トラックごとにダブリングやルーム・エコーなどのエフェクトを付けて録っていたらしい。その分ミキシングには余裕ができたのだろうが、全体的な音場感はこのトレバーに通じるものがあり、サンプリングに近いこともやっている。このころポリシンセもめずらしく、ソリーナ(ストリングス・アンサンブル)やミニムグを、苦勞して使用しただろう。ジェフは、「ザ・バグلزは制作技術的には研究室で実験している2人の技師みたいだった」といっている程だ。しかしこれらのアプローチが現在の事情にマッチしたプロデュース能力のもとに他ならない。トレバーが送り出す作品も楽しみだし、ジェフも『The New Dance Orchestra』というソロ・プロジェクト(?)の制作を終えた。今後も期待できる2人だ。

バグلزにみるキーボード・プレイ

- ① ストリングスのギミック・アルペジオ
「キッド・ダイナモ」
- ② 8分て押しまくるピアノ
「思い出のエルストーリー」
- ③ 2種類の音(pf&strings)のユニゾン
「アストロボーイ」



ザ・バグルズ・サウンド

再現のポイント

佐橋俊彦 (採譜・解説)



サウンドを聴くと思わず嬉しくなってしまう、キーボードが全篇にフィーチャーされたナンバーである。それも、ポップなピアノ・バックিংあり、プログレ的な（ブラス系音色での）シンセの絡みあり、はたまたテクノを思わせる中間部の間奏ありで、まさにキーボーディストのためにあるようなアレンジが施されている。コーラスなどを注意深く聴いてみると、'60年代のドゥ・ワップを思わせるフレーズも顔を出している。それらがすべて集合して、あくまでもポップに仕上がっている点が特筆すべきで、多くの表現手段を使っても決して不自然な流れになることなく、それぞれが有機的に結び付いているあたりは見事としかいいようがない。今回取りあげた「ラジオ・スターの悲劇」は、幅広い知識と抜群のセンスを持つアーティストが、作詞、作曲、アレンジというプロセスを1つのしっかりとした目的のもとに進め、レコーディングした曲であるといえるだろう。

KEYBOARD

部分的なブレイ解説に入る前に、このスコアを再現するための編成について考えてみよう。レコードやスコアからわかるように、こ

の曲はキーボーディスト1人でプレイするのは不可能である。理想的には3人のキーボーディストでプレイされるべきだが（ときどき現れるギター・フレーズをキーボードで代用したり、**E**などで1人のキーボーディストにかかる負担を軽くすることを考えた場合）、とりえずここでは、2人のキーボーディストでプレイすることを考えていく。ただしこの場合、ギターのパートはキーボードではフォローできないので、ギタリストを入れるか、ギター・フレーズをカットすることになる。

[Intro]の**[Poly Synth.1]**は2time目より現れる。もしMIDI仕様のピアノを使用するならば、ポリシンセとユニゾンさせて、1人のキーボーディストでプレイできる。**④**からのピアノによるコード・バックিংは、弾いている音自体は実にシンプルだが、安定したキープをするのは意外に難しい（特に初心者）。アクセントに入れ込み過ぎて次のタイミングが遅れたり、逆に速くなったりすることが多い。また、ピアノ歴は長くてもクラシック系の人

にも同じ症状をみかける。

ポイントとしては、絶えず正確な8分のタイミングを身体でキープし続けること、アクセントやタイに惑わされることなく粒の揃った8分のキープを、メトロノームなどを使ってマスターすることがまず先決。それができたらノリを出すことを考えたほうが良い。

この他は特に難しいフレーズは出てこないが、シンセの音色はボイス・データを参考に時間を十分かけて作ってほしい。また、**④**などは3つの音色が重なるので、ボリュームのバランスには十分気をつけよう。最後に有能な女性ボーカルをみつけることも忘れずに！

THE BUGGLES

'70年代の後半、ロンドンでセッション・マンとして活動していたジェフ・ダウンズと、フリーのプロデューサーのトレバー・ホーンが中心となったグループ。'79年のファースト・アルバム『プラスチックの中の未来』から「ラジオ・スターの悲劇」が大ヒットする。

'80年には、J・アンダーソンとR・ウェイクマンの抜けたイエスに参加し、LP『ドラマ』を制作するが後に脱退する。'81年、ザ・バグルズとして2枚目のLP『Adventures in Modern Recording』（日本未発売）を発表し、その後トレバーはプロデューサーとして大活躍し、ZTTレーベルを設立している。ジェフはエイジアを結成し、『詠時感』『アルファ』『アストラ』と3枚のLPを発表するが、現在エイジアは解散状態。'86年にはS・ハウとS・ハケットの双頭バンドGTRのプロデュースを行なっている。最新作は、『The New Dance Orchestra』（9月25日に国内発売）。

VOICE DATA

■ソリーナ・ストリングス(by CZ)

LINE SELECT	MOD		DETUNE				VIBRATO				OCTAVE	
	RING	NOISE	+	-	OCT	NOTE	WAVE	DELAY	RATE	DEPTH	+	-
1+2			0	00	10		1	00	50	03		0
ENVELOPE												
	1ST	2ND	STEP		1	2	3	4	5	6	7	8
DCO 1	5	0	R	L	50	50						
					OOSUS	END						
DCO 2	1	0	R	L	50	50						
					OOSUS	END						
KEY FOLLOW												
			STEP		1	2	3	4	5	6	7	8
DCW 1	0		R	L	99	61						
					END							
DCW 2	0		R	L	99	50						
					END							
KEY FOLLOW												
			STEP		1	2	3	4	5	6	7	8
DCA 1	0		R	L	70	40						
					END							
DCA 2	0		R	L	70	40						
					END							

■ムーグ・ホルン(by JUNO-106)

LFO	DCO	HPF	VCF	VCA	ENV	CHORUS
WAVE	FORM	FREQ	ENV	ATTACK	RELEASE	DEPTH
1	2	3	4	5	6	7

▲ごく普通のストリングスのセッティング。エンベロープには特別工夫の必要はない。DCO1は波形5、DCO2は1を選び、余韻と立ち上がりそれぞれを、デチューンをかける。

▲歌中でウラメロをとっている、ホルン風の音。VCFは、FREQ、ENVとも押さえて、波形は鋸歯状にした方がキレイ。コーラスもかけないほうがよい。サブ・オシレーターを少しMIX、ATTACK調整がポイント。バンドはVCF-BEND MODE。ホルンメントを少しかけ、POLY IIモードを使う。

データ作成・松崎雄一

Intro.

Vocal: E^bm7 (on G^b) D^b (on F) E^bm7 1. B^bm7 2. A^b

Keyboard 1: 1 × tacet Poly synth. 1

Keyboard 2: P.f

Bass: 1 × tacet 8va

Drums

A D^b (on F) E^bm7 (on G^b) A^b sus4 A^b (コード同じ) D^b (on F) E^bm7 (on G^b) A^b sus4

I heard you on the wireless back in fifty two Ly-ing a-wake in tent-ly tun-ing in on you If I was young it didn't stop

B A^b OH OH

you coming through They took the credit for your second symphony

Brass

Db(onF) Ebm7(onGb) Absus4 Ab Db(onF) Ebm7(onGb) Absus4

Re-written by machine, a new te-chnolo - gy And now I un der stand the problems You could see, OH — OH —

Ab D^b G^b

I met your child - ren — OH — OH — What did you tell them Vi - de - o killed the ra - di - o - star

Db G^b D^b Ab(onC) G^b(onB^b) 1. Absus4 Bbm9

Vi - de - o killed the ra - di - o - star Pictures came — and broke — your heart — OH —
In my mind — and — in my car — we

E.p P.f

$D^b(\text{on } F)$ $Ebm7(\text{on } G^b)$ A^bsus4 A^b oh ————— $D^b(\text{on } F)$ $Ebm7(\text{on } G^b)$ A^bsus4

And now we meet in an a - bandoned stu - di - o we hear the play-back and it seems so long a - go And you re - member the

A^b jungles used to go OH ————— You were the fir - st one OH ————— we were the la - st one

Guitar

2. & time
 D^b $A^b(\text{on } C)$ $G^b(\text{on } B^b)$ to A^bsus4 $Bbm9$

can't re-wind, - we've gone too far — OH OH

E.p P.f

E Ebm7 (onGb) Ab Db (onF) Gb Kb. Hr. + Glouc. (onGb) Ebm7 Ab F (onA) Bbm **F** Ebm7 (onGb)

Db (onF) Ebm7 Ab Bb Gb Bb Gb Ab **⊕ Coda** Db Ab (onC) Gb (onBb)

Pictures came_ and broke _ your heart_

Guitar

Hr.

D.S.

Db (onAb) Ab Gbadd9 **G** Db (onF) Ebm7 (onGb) Ab sus4 Ab 1x only

Put the b-lame on V T R You are Ra-di-o - star You

Poly synth. 2x only

2x

2x only

D^b are G^b a Ra-di-o D^b star G^b You D^b are G^b a Ra-di-o
 Vi-de-o killed the ra - di-o - star Vi-de-o killed the ra - di-o - star Vi-de-o killed the ra - di-o - star

3x Guitar

D^b star G^b A^b (on G^b) A^b D^b (on F) $E^b m7$ A^b sus4 A^b (on G^b) A^b 3x only
 Vi-de-o killed the Ra - di-o star OH OH OH OH

Guitar Strings

P.f

2x only

3 or 4x Repeat & F.O.

OH OH OH OH OH OH

2x only Brass

F.O.